

三重県新エネルギービジョン（中間案）に係る意見募集
主な意見と対応（案）

対応（案）	① 最終案に反映するもの	② 既に反映しているもの	③ 実施にあたって参考とするもの	④ 反映が困難なもの	⑤ ご感想等
-------	-----------------	-----------------	---------------------	---------------	-----------

I 新エネルギー全般

	主なご意見	対応（案）	ご意見に対する考え方（案）
1	エネルギー自給率が低い中で、化石燃料の消費を抑制するため、地球温暖化対策として、新エネルギーの導入を進めるべき。	②	新エネルギーの導入は、出力の不安定性や高コストなどさまざまな課題があるものの、長期的にはエネルギー自給率の向上やエネルギー供給源の多様化、地球温暖化対策への効果が見込まれています。さらに新エネルギーに関連した新たな市場や雇用機会の創出という産業振興への波及効果も期待されることから、第3章1理念（P11）のとおり、新エネルギーの導入促進に取り組んでいきます。
2	新エネルギーについて、みんなで考えることが大事、また、行政のバックアップやしっかりした説明が必要。	③	新エネルギーの導入促進にあたっては、国や地方公共団体のみならず、県民、事業者、NPOなど多様な主体の皆さまとの連携が重要であることから、新エネルギーに対する理解を一層深めていただけるよう、適切で効果的な情報提供や普及啓発に取り組む必要があると考えています。

II 風力発電

	主なご意見	対応（案）	ご意見に対する考え方（案）
3	騒音・低周波等の環境への影響懸念 ⇒第4章④で示すように、騒音・低周波の影響について“実態解明”が適切ではないか。	①	ご指摘を踏まえ、第2章2（4）新エネルギー導入にあたっての課題（P10）において、「騒音・低周波音等の実態解明」に修正します。

4	風力発電の推進。	②	自然環境や住環境との調和に十分留意しつつ、比較的風況がよい地域があるという本県の地域特性を生かした風力発電が適切に導入されるよう取り組むことを第4章2④風力・中小規模水力発電施設の導入促進(P24)で記載しています。
5	風力発電に対する行政の積極的姿勢をもっと強く記載すべき。	④	風力発電施設の設置に伴う生活環境や自然環境への影響の懸念が全国的な課題となっており、適切な情報提供と、地域住民をはじめ多くの関係者との意見調整を図りながら事業を進めていく必要があると考えています。
6	立地条件に配慮して導入を進めてほしい。 環境先進県としてアピールできるよう導入を進めてほしい。	⑤	自然環境や住環境との調和に十分留意するとともに、風力発電の事業化にあたっては、適切に情報が提供され、地域住民をはじめ多くの関係者との意見調整を図りながら事業を進めていく必要があると考えています。

IV 中小規模水力

	主なご意見	対応(案)	ご意見に対する考え方(案)
7	中小規模水力発電についても課題を追記してはどうか。	①	ご指摘を踏まえ、新たに対象とする新エネルギーの種類(太陽熱利用、中小規模水力、ヒートポンプ)ごとの課題を追記します。

V 導入目標

	主なご意見	対応(案)	ご意見に対する考え方(案)
8	新エネルギーの導入目標、特に風力発電の目標をもっと上げるべき。	④	自然環境や住環境との調和に十分留意する必要があること、事業化にあたっては、適切に情報が提供され、地域住民をはじめ多くの関係者との意見調整を図りながら事業を進めていく必要があることも勘案しつつ、妥当な根拠に基づく目標値であると考えています。

VI 具体的取組・費用負担等

	主なご意見	対応 (案)	ご意見に対する考え方 (案)
9	<p>余剰電力買取制度や全量買取制度により、新エネルギーの設備を持っていないことも、既に電気料金として負担していることや、今後さらに負担が増えることはまだ多くの方に知られていない。コストの一部は、電気を使用している県民全体で負担するという内容も併記するべき。</p> <p>さらに、新エネルギー導入にあたって、最大の課題となる「量が限られる点」も記載するべき。</p> <p>(ほか同様の内容が1件)</p>	①	<p>ご指摘を踏まえ、第2章2(4)新エネルギー導入にあたっての課題(P10)において、「新エネルギーの導入に伴う費用の一部は電気を利用する方全員で負担することになるため理解が必要」や、「新エネルギー設備・施設の立地条件の制約から導入量に限りがある」ことを追記します。</p> <p>なお、巻末の参考資料で「全量買取制度(P39)」「余剰電力買取制度(P43)」の用語解説を記載しています。</p>
10	<p>新エネルギーの大量導入時に必要な電力系統の安定化対策に係る費用の県民負担についても記載するべき。</p>	①	<p>ご指摘を踏まえ、第2章2(4)新エネルギー導入にあたっての課題(P10)において、「新エネルギーの大量導入には電力系統の安定化対策が必要」を「新エネルギーの大量導入には電力系統の安定化対策やそれに要する費用負担への理解が必要」に修正します。</p>
11	<p>目標達成のため、より具体的な取組や重点化、コストなどの定量的な説明が必要。</p>	③	<p>新たなビジョンの策定にあたっては、新エネルギーの導入促進を図っていく県としての理念を明らかにし、県民、事業者及び行政が共通の認識を持って取り組むことで、目指すべき将来像の実現に向けた方向性を主に検討してきました。</p> <p>計画的に新エネルギーの導入を促進していくために、県庁内の体制や、関係機関との連携を図り、相互に情報提供、意見交換を行う中で、より具体的な取組や、取組ごとの重点化、コスト等の定量的な視点を含めて検討していきたいと考えています。</p>

(4) 新エネルギー導入にあたっての課題

新エネルギーは、出力の不安定性や高コスト等の課題があります。また、エネルギー関連施策・環境関連施策の動向や技術開発の動向、社会経済情勢なども新エネルギーの導入へ影響を与えます。これらの他、新エネルギー種類別の課題は次のとおりです。

表2.2 新エネルギー導入にあたっての課題

新エネルギーの種類	課題点
太陽光発電	<ul style="list-style-type: none"> ・発電電力量が気象条件に依存 ・低価格化が進んでいるが、依然として設置費用が高い ・維持管理面で不安をもつ県民・事業者がいる
<u>太陽熱利用</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>熱需要の少ない夏季に熱発生量が多く、熱需要の多い冬季に熱発生量が少ない</u> ・<u>太陽光発電と設置場所が競合</u> ・<u>水を取り扱うため、定期的なメンテナンスが必要</u>
風力発電	<ul style="list-style-type: none"> ・発電電力量が気象条件に依存 ・バードストライク、自然景観等の自然環境保全との両立、<u>騒音・低周波音等の環境への影響の懸念</u> ・<u>騒音・低周波音等の実態解明</u> ・適地の多くが国立・国定公園や保安林に指定され、大規模風力発電の導入が困難 ・法規制による手続きが煩雑
バイオマス発電・熱利用	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー密度が低く、収集・運搬の費用負担が大きい ・資源の安定した供給の確保 ・食料や飼料との競合
<u>中小規模水力発電</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>設置費用が高い</u> ・<u>水利権などの法手続きが煩雑</u> ・<u>取水口の除塵など日常保守が必要</u>
コージェネレーション	<ul style="list-style-type: none"> ・電力需要・熱需要の規模に合わせた設計・運用が必要 ・燃料供給網の拡大等が必要
燃料電池	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭用として平成21年に販売が開始されたが、まだ設置費用が高い ・燃料供給網の拡大等が必要
クリーンエネルギー自動車	<ul style="list-style-type: none"> ・一般車両に比べて高額 ・燃料供給等のインフラ整備が進んでいない
<u>ヒートポンプ</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>外気温が低いとエネルギー消費が高い</u> ・<u>地中熱を利用する場合は掘削費を含め設置費用が高い</u>
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電など一部を除くと新エネルギーに関する認知度は低い傾向にある ・多様な主体が参加し、新エネルギー導入を促進するための仕組みがない ・コスト削減や性能向上等のための研究開発には時間と多大な費用を要する ・<u>新エネルギーの導入に伴う費用の一部は電気を利用する方全員で負担することになるため理解が必要</u> ・新エネルギーの大量導入には電力系統の安定化対策や<u>それに要する費用負担への理解が必要</u> ・<u>新エネルギー設備・施設の立地条件の制約から導入量に限りがある</u>